

もっと現場を知る！職員短期派遣研修報告書

所属名	環境生活総務課	氏名	安達 秀哉
派遣先 団体名	特定非営利活動法人 およこ劇場松江センター		
<p>① 研修の日時</p> <p>6月27日(土)14～18時:地域公演「けん玉公演」 古志原小学校 8月26日(水)8～12時:おおたか静流コンサート 松江スティックビル 10月4日(日)9～13時:例会を決めよう会 松江スティックビル 10月25日(日)9～13時:岩田英作氏講演会 島根県立大学松江キャンパス 11月3日(火・祝)8時半～13時:人形劇「おふろだいすき」 松江スティックビル</p> <p>② 研修の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動事業に係る会場設営、チケットのもぎり、受付、演者との事前打ち合わせ、NPO法人との事前打ち合わせ、小道具の配布及び回収等、イベントの参加。 ・上記の活動を通して、子ども達が上級生や異世代の会員と一緒に裏方として携わることにより社会のルール等を学び成長する場を体験する。 <p>③ 研修の感想</p> <p>私が参加させていただいた団体は、親子で優れた生の舞台芸術を鑑賞し、また他の親子とともに色々な活動することなどを通して子供たちの豊かな心を育むことを目的に40年以上活動されている団体である。この取り組みが評価され昨年度は、内閣府特命担当大臣賞を受賞されるなど歴史も実力もある団体である。</p> <p>私自身、子どもを持つ親として、また私が子ども時代のときのように子供の年齢を超えた交流があり自然と社会のルールを学んでいた時と異なり、核家族化や治安の悪化など社会の変化に伴い地域等での子どもを取り巻く環境が大きく変わった状況で、特に準備等の裏方作業において、どのように子どもの成長を支えておられるのかを肌で感じてみたいという思いもあり参加したものである。</p> <p>実際に現場では、運営も子ども、親ともに参加者自身の手によって行われており、子ども達は促される訳でもなく率先して他の親だけでなく異学年の子どもと一緒に準備作業を行い、また会議の場においても、子どもが参加するのはもちろんのこと提案した場合はその理由を答えることとしているなど、その活動一つ一つが自然と成長に繋がる仕組みになっていると感じた。</p> <p>また、このような年齢を超えた多くの友達及び親も含めた地域交流の中での体験は、未就学児も含めた子供にとって大きな財産となり、何かしら頭の記憶に残ると思うのと同時に、その後の子どもの成長や社会生活において良い影響を与えるものだと感じた。</p> <p>それは何より、子どもが豊かに育つための環境づくりを父親、母親関係なく自ら行い、また事業を決めるための会議においても、自分の子ども、他人の子ども関係なく健やかな成長を願う熱い思い、妥協しない姿勢が結実して事業になったためであると確信した。</p> <p>前述のとおり子どもの成長を取り巻く環境が変わってきたなかで、地域で子育てをするという昔は当たり前のようにあった環境が特別な取り組みを必要とする悲しい社会になった。その中でも、できるだけ昔ながらの異世代間交流等を通した人間形成活動を行うなど、行政でもなかなか手が届きにくく限界のある、このような場の提供や交流の促進といった取り組みは、島根県の将来を担うかもしれない子どもの健やかな成長を育むうえで、また親達にとっても非常に意義のある活動であると思った。</p> <p>研修を通して子育て環境の整備等の側面支援が必要であると思ったのと同時に、個人としても、学校の関わりだけでなく地域での子ども達との関わり方を考え、異学年の子ども同士が交流する場の提供といった行政に頼らない取り組みを行っていく必要があると感じた。</p> <p>終わりに、研修の参加に際しましては中島理事長さま、藤井事務局長さまを始め、多くのスタッフのみなさまには大変お世話になり、ありがとうございました。</p> <p>④ その他特記事項</p> <p>「例会を決めよう会」ではスタッフの方々の、この活動に対する熱く真剣な思いを肌で感じる事ができ、その後の活動の関わり方、見方が変化するので参加することをお薦めする。</p>			